

五城目町の教育に関する事務の管理及び
執行の状況の点検及び評価

報 告 書

(令和6年度事業)

令和7年9月

五城目町教育委員会

目 次

	ページ
1 点検と評価について	… 1
2 教育委員の活動状況（令和6年度）	… 3
3 点検と評価の結果	… 5

【学校教育課】

- (1) 教育留学事業
- (2) 育英資金貸付事業
- (3) 放課後児童健全育成事業（すずむしクラブ）
- (4) ごじょうめ子ども議会

【生涯学習課】

- (5) 地域図書室「わーくる」
- (6) 放課後子ども教室推進事業（わらしべ塾）
- (7) 伝統文化子ども教室事業（こども番楽教室）
- (8) 五城目みんなの学校2024

1 点検と評価について

(1) 点検と評価の趣旨

五城目町の教育に関する点検と評価審査委員会（以下、「点検と評価審査委員会」という。）は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 26 条第 1 項の規定に基づき、効果的な教育行政の推進を図るとともに、町民への説明責任を果たすことを目的として行うものです。教育委員会自らが、所管する事務の管理及び執行の状況の点検と評価を行い、それについて学識経験者や民間事業者、保護者代表に外部評価をしていただき、結果を報告書にまとめて議会へ提出するとともに公表します。

参考 地方教育行政の組織及び運営に関する法律

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第二十六条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

(2) 点検と評価の対象及び方法

本報告書の点検と評価は、令和 6 年度の事務事業を対象として実施しています。具体的には、学校教育や社会教育に関することを中心に、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 21 条で教育委員会の職務権限とされ、町教育委員会が所管する事務事業のうち、五城目町教育大綱（令和 4 年度から令和 8 年度まで）の重点施策の実施について点検と評価をするものです。

教育委員会では、目標に対する達成状況や成果等を踏まえて自己評価を行います。評価の区分は次のとおりです。

- A：期待通りの成果を得た
- B：概ね期待通りの成果を得た
- C：改善の余地がある
- D：廃止すべきである

そのうえで自己評価や事業の成果、今後の方向性などをまとめた事務事業評価シートを作成しました。これをもとに教育委員会による自己評価が適切であるかどうかについて、審査委員から意見をいただきました。

(3) 報告書作成過程

本報告書は、次のような過程で作成しました。

- 4月23日(水) 教育委員会4月定例会にて、点検と評価審査委員の委嘱について議決
- 5月31日(土) 出納閉鎖
- 6月中 教育委員会各課で事務事業評価シートを作成
- 7月4日(金) 第1回五城目町の教育に関する点検と評価審査委員会を開催
(13:30～ 役場4階大会議室)
- 7月29日(火) 第2回五城目町の教育に関する点検と評価審査委員会を開催
(13:30～ 地域図書室『わーくる』、学童保育『すずむし
くらぶ』を視察。その後、五城目小学校会議室にて会議)
- 8月6日(水) 点検と評価審査委員による評価書提出締切
- 8月27日(水) 教育委員会8月定例会にて、報告書を議決
- 9月1日(月) 五城目町9月議会に提出 → 公表

(4) 点検と評価審査委員名簿

点検と評価にあたっては、客観性を確保するとともに、住民の意見を教育行政に反映することができるように、学識経験者や民間事業者、保護者代表として次の3人を審査委員に委嘱し、意見をいただきました。

氏 名	備 考
鳥 井 雅 則	元 男鹿東中学校長
佐 藤 佳 伸	秋田銀行五城目支店長
藤 本 祐	五城目小学校PTA役員

※委員の互選により、鳥井雅則氏が審査委員長に就任

2 教育委員の活動状況（令和6年度）

（1）教育委員

（令和7年3月31日現在）

職名	氏名	任期
教育長	畑澤政信	令和4年10月5日～令和7年10月4日
教育委員 教育長職務代理者	八木下真全	令和6年10月1日～令和10年9月30日
教育委員	高橋志帆	令和4年12月18日～令和8年12月17日
教育委員	小松睦子	令和4年12月18日～令和8年12月17日
教育委員	鷲谷真一	令和6年10月1日～令和10年9月30日

（2）教育委員の主な活動

期日	会議名	出席者等
4月9日	男鹿市・潟上市・南秋田郡地教委・校長会合同懇談会 （潟上市市民センター）	畑澤教育長 小松委員
4月17日	令和6年度第1回総合教育会議（五城目町役場）	畑澤教育長 全教育委員
5月14日	全国町村教育長会総会・研究大会（東京）	畑澤教育長
5月29日	令和6年度秋田県市町村教育委員会連合会 第1回定期総会（秋田市役所）	畑澤教育長
6月21日	町教育委員会学校訪問 （五城目小学校、五城目第一中学校）	畑澤教育長 全教育委員
7月11日 ～12日	令和6年度東北六県市町村教育委員会連合会定期総会 （山形市）	畑澤教育長 全教育委員
9月5日	全県市町村教育委員会教育長会議（秋田県庁第二庁舎）	小松委員
10月17日 ～18日	秋田県町村教育長会研究会（サンルーラル大潟）	畑澤教育長
11月7日	令和6年度第1回秋田地区教育長会議 （秋田県庁パークホテル）	畑澤教育長
1月15日	秋田地区第1回教育長面談（秋田地方総合庁舎）	畑澤教育長
1月21日	南秋田郡教育長連絡協議会（五城目町役場）	畑澤教育長
2月4日	秋田地区第2回教育長面談（秋田地方総合庁舎）	畑澤教育長
2月12日	秋田地区第3回教育長面談（秋田地方総合庁舎）	畑澤教育長

(3) 教育委員会会議 議案一覧

議案番号	件名	提出年月日
14	五城目町の教育に関する点検と評価審査委員の委嘱について	R 6 . 4 . 2 4
15	五城目町学校運営協議会委員の任命について	R 6 . 4 . 2 4
16	五城目町地域クラブ活動指導者の委嘱について	R 6 . 4 . 2 4
17	第3期五城目町子ども読書活動推進計画(案)について	R 6 . 4 . 2 4
18	五城目町子ども・子育て会議条例の一部を改正する条例制定について	R 6 . 8 . 2 3
19	令和5年度五城目町の教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検評価報告書の提出について	R 6 . 8 . 2 3
20	五城目町高齢者等活動・生活支援促進機械施設馬川交流センターの指定管理者の指定について	R 6 . 1 0 . 2 3
21	五城目町馬場目地区文化交流センターの指定管理者の指定について	R 6 . 1 0 . 2 3
22	五城目町富津内地区公民館の指定管理者の指定について	R 6 . 1 0 . 2 3
23	五城目町総合生きがいセンターの指定管理者の指定について	R 6 . 1 0 . 2 3
24	五城目町農村環境改善センターの指定管理者の指定について	R 6 . 1 0 . 2 3
25	五城目町森山地区公民館の指定管理者の指定について	R 6 . 1 0 . 2 3
1	五城目町スポーツ推進委員会委員の任命について	R 7 . 2 . 2 1
2	五城目町社会教育委員会委員の委嘱について	R 7 . 2 . 2 1
3	秋田周辺広域市町村圏五城目体育館運営委員会委員の委嘱について	R 7 . 2 . 2 1
4	五城目町開発センター運営委員会委員の委嘱について	R 7 . 2 . 2 1
5	五城目町立公民館運営審議会委員の委嘱について	R 7 . 2 . 2 1
6	五城目町放課後児童健全育成事業による費用の徴収に関する条例の一部を改正する条例の制定について	R 7 . 2 . 2 1
7	五城目町語学指導を行う外国青年招致事業に係る任用規則の一部を改正する規則制定について	R 7 . 2 . 2 1
8	五城目町育英資金貸付規則の一部を改正する規則制定について	R 7 . 2 . 2 1
9	五城目町中央公民館長の任命について	R 7 . 3 . 2 8
10	五城目町社会教育委員会委員の委嘱について	R 7 . 3 . 2 8
11	秋田周辺広域市町村圏五城目体育館運営委員会委員の委嘱について	R 7 . 3 . 2 8
12	五城目町開発センター運営委員会委員の委嘱について	R 7 . 3 . 2 8
13	五城目町地域学校協働活動推進員の委嘱について	R 7 . 3 . 2 8
14	五城目町学校運営協議会委員の任命について	R 7 . 3 . 2 8
15	町立小中学校管理規則の一部を改正する規則制定について	R 7 . 3 . 2 8

※議案番号は暦年による一連番号です

【事務事業評価シート】

番 号		R06-1		五城目町教育委員会 学校教育課									
事業名		教育留学事業											
① 事業の概要	開始年度	令和2年度		個別計画等									
	補助・単独	補助		根拠法令等									
	実施方法	<input type="checkbox"/> 町単 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> その他(臨時交付金)											
	対 象	五城目小学校、五城目第一中学校											
	目指すべき姿	<p>・高い学力や体力を育んできた「秋田型探究授業」や自然、文化などを生かした体験活動等とおして、秋田県の教育環境のよさを県外の児童生徒や保護者に体験してもらい、関係・交流人口の拡大や移住定住の促進につなげる。</p>											
事業内容	<p>・各小中学校の授業や、豊かな自然・文化を生かした休日の体験活動等を通じて、秋田県の教育環境のよさを県外の児童生徒や保護者に体験してもらう。</p>												
② 事業コスト	区 分		単位	4年度	5年度	6年度	7年度 (当初予算)	特記事項					
	最終予算額(7年度は当初予算額)		千円	314	607	644	612	令和6年度までは秋田県の委託事業として実施					
	決 算 額		千円	268	554	428		令和7年度からは町単独の事業として実施					
	決算額のうち一般財源		千円		57	56							
	概算人件費		該当するサポート職員数	人	5	2	3						
		概算人件費	千円	28	33	47							
③ 実績	区 分		単位	4年度	5年度	6年度	7年度 予定	特記事項					
	1	受入児童生徒数	人	6	20	28	20	現時点で当初予定していた20名の応募があり、募集を一時停止している。					
	2	実施学校数	校	2	2	2	2	今後再募集について検討していく予定。					
	3												
④ 達成目標	区 分		単位	4年度	5年度	6年度	7年度 予定	目標値	6年度達成率	特記事項			
	1	移住者	人	1	0	0	0	—	—				
	2												
	3												
⑤ 事業の評価	項目	説 明 ・ 考 察											
	成果	<p>・リピーターとして教育留学に再度参加する方が年々増加傾向にあり、令和6年度は2名、令和7年度は現時点で7名がリピーターとなっている。</p> <p>・閲覧した希望者に教育留学の雰囲気を感じ取っていただくことができるよう、教育留学に参加した児童の体験談をホームページに掲載しており、参加を検討する際の好材料となっている。また、利用者の多い宿泊先や町での過ごし方のサンプルなど、ホームページやリーフレットに掲載する情報を拡充し、応募者の利便性向上に努めている。</p> <p>・人数が少なく、交友関係が広がりがづらい五城目町の児童生徒にとっても、文化圏が異なる留学生と交流し、刺激を受けることができる貴重な機会となっている。</p> <p>・1～2週間の比較的短い期間で、区域外就学といった複雑な手続きを経ることなく、教育留学に参加できる事例は少ないという声もある。こういった参加のしやすさが魅力の一つにもなっているようである。</p>											
	今後の課題 方向性	<p>・令和5年度に教育留学を体験した保護者から移住に関する相談があったものの、希望に沿った五城目町での居住地が見つからず、現在でも保留状態となっている。こういった移住に関するハードルを教育留学制度の充実をもって解消するのは難しい部分もあるため、移住人口にこだわらず、関係人口の増大を目指す形へ舵をきることを検討する必要がある。</p> <p>・参加希望者は年々増加傾向にあるものの、町の宿泊施設数や、受け入れる学校側の負担を考えると、これ以上キャパシティを拡大することは難しい。受入調整や事務手続など、留学生にとってはより参加しやすく、受け入れ側にとってはより負担の少ない方法を検討していきたい。</p>											
	教育委員会 による 自己評価	A		<p>・全国的に教育留学やデュアルスクールのような居住地以外での教育プログラムが広がっており、教育留学に参加する児童生徒の中で、他地域の教育留学への参加経験がある方も増えてきている。そういった時勢もあり、出席日数の取り扱いをはじめとした在籍校とのやり取りについても概ねスムーズに進めることができている。</p> <p>・留学生および受け入れ側の児童・生徒にむけたアンケートの結果も良好であり、概ね事業の目的は果たされていると考える。</p> <p>・事業の目的を果たすことは前提に置きながら、留学生にとってより参加しやすく、受け入れ側にとってより負担の少ない事業設計を、留学生の保護者や教職員をはじめとした関係者からの意見も伺いつつ検討していきたい。</p>									
	審査委員の 意見	<p>・県で展開すべき好取組と見られる。移住につながるのが理想ではあるが、リピーターの家族は間違いなく関係人口・交流人口に数えられるべきで、将来に渡って町の財産になりえると見られる。空き家・貸家情報の蓄積は行っていくべきと見られる。</p> <p>・R4から始まったこの事業で、受け入れ児童生徒が順調に増えてきていること、リピーターが一定数いるということは評価できると考える。不登校児童生徒や引きこもり等の増加が全国的に問題になっており、その受け皿や教育の選択肢として、町のやっている事業は貴重な意味をもつ。今後も他市町村に先駆けて、教育留学事業を定着してほしい。</p> <p>・せっかく五城目町にきたのだから、町のよさ(豊かな自然、人びとの優しさ等)に触れさせた企画を続けてほしい。</p> <p>・移住に関する課題をクリアするような手立てが具体的にあればよい。</p> <p>・居住希望の方がいたが、保留状態との記載がありました。この事業の趣旨外の事業でしようし、別途新事業の形で希望にそう場所を提供できるよう、より親身な支援が出来ればと思います。</p>											

【事務事業評価シート】

五城目町教育委員会 学校教育課

番 号	R06-2										
事業名	育英資金貸付事業										
① 事業の概要	開始年度	昭和46年度	個別計画等								
	補助・単独	単独	根拠法令等	五城目町育英資金貸付規則							
	実施方法	<input type="checkbox"/> 町単 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> その他(臨時交付金)									
	対 象	五城目町に住所を有する者の子弟で、高等学校及び同程度の学校の生徒・大学生・大学院である者									
	目指すべき姿	五城目町教育振興のため、学費を貸与し、優秀な人材を育成することを目的とする。									
事業内容	申請者のうち認定となった者に対し、以下のとおり貸付をする。 ・高等学校及び同程度の学校の生徒・・・月額20,000円以内 ・大学生・大学院生・・・月額40,000円以内 返済期間は貸付期間の2倍の期間とする。										
② 事業コスト	区 分	単位	4年度	5年度	6年度	7年度 (当初予算)	特記事項				
	最終予算額(7年度は当初予算額)	千円	385	25	2,185	6,073					
	決 算 額	千円	382	19	2,182						
	決算額のうち一般財源	千円	382	19	2,182						
	概算人件費	該当するサポート職員数	人	7	6	7					
	概算人件費	千円	21	18	21						
③ 実績	事業の実績	区 分	単位	4年度	5年度	6年度	7年度 予定	特記事項			
	1	高校生	人	2	0	3	4	令和6年度より貸付金額及び貸付対象を拡大			
	2	大学生	人	-	-	2	3	(貸付者のみ)			
	3	大学院生	人	-	-	1	2				
④ 達成目標	事業の成果	区 分	単位	4年度	5年度	6年度	7年度 予定	目標値	6年度達成率	特記事項	
	1	貸付人数	人	2	0	6	9	-	-		
	2	償還率	%	100	100	100	100	-	-		
	3							-	-		
⑤ 事業の評価	項目	説 明 ・ 考 察									
	成果	・令和5年度が貸付者が0人だったこともあり、審査委員会で五城目町育英資金の貸付金額及び貸付対象の見直しについて意見が上がったため、令和6年度より支援の幅を広げた。 ◎高校生のみ→大学生・大学院生も追加 ◎年間180,000円以内(高校生のみ)→高校生・・・月額20,000円以内、大学生・大学院生・・・月額40,000円以内 ・貸付対象を大学生及び大学院生まで拡大したこと、貸付金額の上限を引き上げをしたことで、地域や社会に貢献する高度人材の輩出につながっている。									
	今後の課題 方向性	・申請時の手続きについて、令和6年度末に見直しをしたところだが、実状に応じて適宜見直しをし、適切な処理を行う。 ・高校の授業料無償化や小中学校の給食費無償化など、子育て世帯を支援する動きが見られるようになってきているが、今も学生やその保護者にとって経済的に厳しい状況が続いているため、引き続き支援をしていく必要がある。 ・今後も貸付型の育英資金制度を行っていくが、最近では給付型についても話題に上がることがあるため、慎重に協議していきたい。									
	教育委員会 による 自己評価	A	五城目町の育英資金貸付事業は、経済的な理由で進学が困難である方に対し、確実な支援を提供する手段として一定の効果を挙げてきた。特に、令和6年度の規則改正による貸付金額の増額及び貸付対象の拡大は、より多様な進学ニーズに対応することができた。今後も現在の制度を継続しつつ、学費の高騰や雇用等の社会経済の変化に応じた制度の見直しを行っていきたい。								
	審査委員の 意見	・支援の輪を広げたことで利用者が拡大したことは評価できることと史料する。今後は、簡単ではないと思うが、給付型の検討も視野に入れていく必要があると史料する。 ・高校生の貸付人数が少ないことについては授業料無償化もあり、特段、奨学金を必要としなくなった結果と理解できる。しかし、大学や大学院生も意外と少ない。町のHPや広報により住民に発信を続けてほしい。また、専門学校に進学する生徒もいるので、貸付の範囲を拡大することも一考である。宣伝の更なる拡充と共に、この形だけでなく、例えば経済的に苦しい世帯への給付の形を検討してもいいかと思います。									

【事務事業評価シート】

番 号		R06-3		五城目町教育委員会 学校教育課						
事業名		放課後児童健全育成事業(学童保育すずむしクラブ)								
①事業の概要	開始年度	平成14年度	個別計画等							
	補助・単独	補助	根拠法令等		児童福祉法、五城目町放課後児童施設設置条例、他					
	実施方法	<input type="checkbox"/> 町単 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> その他(臨時交付金)								
	対 象	小学校に就学している児童で、保護者が労働等により昼間家庭にいないもの(小学校1～4年生)※令和7年度から5・6年生の受入開始								
目指すべき姿	・保護者が労働等により昼間家庭にいない、五城目小学校に就学している児童に対し、授業の終了後に小学校敷地内の専用施設にて適切な遊び及び生活の場を与えて、その健全な育成を図るものである。									
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後児童の健康管理、安全確保、情緒の安定 ・遊びの活動への意欲と態度の形成 ・遊びを通じた自主性、社会性、創造性の育成 ・放課後児童の遊びの活動状況の把握と家庭への連絡 ・家庭や地域での遊びの環境づくりへの支援 ・その他放課後児童の健全育成上必要な活動 									
②事業コスト	区 分		単位	4年度	5年度	6年度	7年度(当初予算)	特記事項		
	最終予算額(7年度は当初予算額)		千円	9,848	12,063	12,176	14,124	令和6年度歳入内訳		
	決 算 額		千円	9,723	11,867	12,005		・放課後児童健全育成事業補助金		
	決算額のうち一般財源		千円	2,524	3,694	3,703		3,344,000円		
	概算人件費		該当するサポート職員数	人	8	7	7	・子ども子育て交付金 3,441,000円		
		概算人件費	千円	7,355	8,667	8,536	・学童保育クラブ費 1,517,625円			
③実績	区 分		単位	4年度	5年度	6年度	7年度(予定)	特記事項		
	1	登録児童数	人	91	72	87	130	令和7年度から5・6年生受入開始		
	2									
	3									
④達成目標	区 分		単位	4年度	5年度	6年度	7年度(予定)	目標値	6年度達成率	特記事項
	1	開室日数	日	280	276	279	285	-	-	
	2	延べ利用者数	人	8,031	7,661	9,100	14,140	-	-	
	3									
⑤事業の評価	項目	説 明 ・ 考 察								
	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度から4年生まで受け入れを拡大したことにより、利用人数が増えた。 ・利用児童はすずむしクラブで決められたルールを守り、保護者がお迎えに来るまで各々充実した時間を過ごしている。 ・緑日やハロウィン、クリスマスなどのイベントを企画したり、すずむし号を利用して外出する機会をつくったりする等、施設内外で楽しめるよう工夫することができた。 ・今年度も防災や防犯に係る訓練や講習を実施し、職員と児童がそれぞれ自分の命を守るためにどう行動すべきか考え話し合う機会を設けることができた。 								
	今後の課題 方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度は補助員の欠員状態が続いていたが、令和7年度は支援員・補助員ともに欠員無しでスタートできた。しかし、すでに退職者がいるため、引き続き支援員・補助員の確保が課題となる。 ・配慮が必要な児童の利用に合わせ、補助員の勤務を依頼する機会が増えている。さらに、遊びの幅が広がったことで児童の動きも活発になっており、事故の心配もある。職員の負担を軽減しつつ児童の見守り体制を徹底するためにはどうしたらよいか、今後の重要な課題の一つとなることが予想される。 ・児童と職員が防災や防犯への意識を高める機会を増やすため、町の消防本部や警察署と連携を強化していきたいと考えている。 ・わかすぎらぶの一時休止に伴い、令和7年度から5・6年生も受入可能とした。1日あたりの利用者がさらに増えることが見込まれるため、見守り体制を強化していきたい。 								
	教育委員会 による 自己評価	A	<ul style="list-style-type: none"> ・例年同様、特に大きなトラブル等もなく、児童の健康管理、安全確保、遊びの活動等適切な対応ができた。 ・支援員は各家庭と綿密に連絡を取り合っており、保護者が安心して子どもたちを預けることができるよう配慮している。 ・施設内外で児童が安全に楽しく過ごせるように工夫することができた。 ・支援員主体となって夏祭りや節分の豆まき等、多様なイベントを企画・実施する動きがあり、利用児童は学年問わず親睦を深めることができた。 							
	審査委員の 意見	<ul style="list-style-type: none"> ・わかすぎらぶの休止に伴い利用者が増加する一方で、支援員、補助員の確保が肝要であると思料する。人材確保に向けた取組継続をお願いする。防犯・防災について話し合う機会を設けている点は、今後も継続すべきと思料する。視察では、子供たちの元気はつらつな姿を見られて元気をもらった。 ・実態に応じて、わかすぎクラブをすずむしクラブに統合したことはよかった。今後も支援員を確保しながら、子どもたちの放課後の見守りをお願いしたい。見学の際、生き生きと活動する子どもたちを見て、元気をもらった。 ・わかすぎらぶの一時統合に伴い、支援委員の方々の負担も増えるかと思料します。新規呼びかけはもちろん、更に予算を割り、支援員・補助員の確保に務めてほしいです。 								

【事務事業評価シート】

番 号	R06-4		五城目町教育委員会 学校教育課									
事業名	こじょうめ子ども議会											
① 事業の概要	開始年度	令和6年度	個別計画等									
	補助・単独	単独	根拠法令等									
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 町単 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> その他(臨時交付金)										
	対 象	五城目小学校(5~6年生)五城目第一中学校(1年生~3年生)										
目指すべき姿	子どもたちが地域社会の一員として、課題に対して自ら考え、意見を発信できる力を育む場を目指す。議会活動を通じて、地域への愛着や責任感を持ち、将来の社会参画に向けた意識を醸成することが重要である。											
事業内容	・町内の小学5年生~6年生、中学生を対象、「五城目町教育振興基本計画」に基づき、地域課題や議会について学び、自らの意見を発表する機会を提供する取り組みである。みんなの学校や、町内フィールドワークを通して、地域に対する理解を深め、社会参画の意識を高めることを目的としている。											
② 事業コスト	区 分	単位	4年度	5年度	6年度	7年度(当初予算)	特記事項					
	最終予算額(7年度は当初予算額)	千円				100	120					
	決 算 額	千円				40						
	決算額のうち一般財源	千円				40						
	概算人件費	該当するサポート職員数	人				4					
	概算人件費(謝礼)	千円				40						
③ 実績	区 分	単位	4年度	5年度	6年度	7年度(当初予算)	特記事項					
	1	受入児童数生徒数	人			16	14					
	2	実施学校数	校				2	2				
	3											
④ 達成目標	区 分	単位	4年度	5年度	6年度	7年度(当初予算)	目標値	6年度達成率	特記事項			
	1	子ども議員満足度	%			100	90	90	100	子ども議員アンケート調査		
	2	子ども議員町や政治への理解度が高まったか	%			100	90	90	100	子ども議員アンケート調査		
	3	傍聴者満足度	%			97	90	90	100	傍聴者アンケート調査		
⑤ 事業の評価	項目	説 明 ・ 考 察										
	成果	児童生徒が議会制度を理解し、政治や地域社会への関心を高める貴重な機会となった。参加者は町議員の講話を通じて実際の政治や議会の役割を学び、主体的な意見を発信する力を身に着けた。また、町内フィールドワークにより郷土愛や地域への責任感が深まり、討議や発表を通じて思考力や協働力を養い、社会参画意識の向上に寄与することができた。										
	今後の課題 方向性	一部の児童生徒において、活動日程が部活動や習い事と重なり参加が難しい状況が見られた。より多くの子どもたちが無理なく参加できるよう、今後は日程調整や周知方法の工夫が求められる。また、フィールドワークで得た地域の情報や体験が、議会での発表や質問に十分に活かされなかった点も課題として挙げられる。子どもたちの興味のある分野に質問が偏る傾向も見られた。児童生徒の自主性を尊重しつつ、町課題全体を幅広く捉える視点を持たせることは容易ではないと考える。次回以降は、学習内容と議会活動との連動を意識したカリキュラム構成に努め、提案の質の向上を図る必要がある。										
	教育委員会 による 自己評価	B	本事業は、児童生徒が地域課題に主体的に向き合い、自らの意見を発信する機会を提供するという目的において、概ね良好な成果を上げることができた。議会制度や、町の仕組みを学ぶ中で、参加者の政治や地域に対する関心が高まり、発表や討議を通じて表現力や協働性も育まれたと評価している。今後は、フィールドワーク等の活動にて関心を広げる導入や支援の工夫をし、より多角的な提案が行えるように取り組んでいきたい。									
審査委員の 意見	・昨年度は町長選挙があったほか、今年度は年度当初から県知事選が行われるなど、政治や議会に興味を持てるタイミングが多く、国民の政治離れが叫ばれて久しいことを考えれば、非常に意義のある取り組みであり今後も継続すべきと思考する。 ・議会を傍聴する機会は貴重である。どんなふう町の制度や事業等が決定されていくのか、その過程を見ることは重要だ。更に一歩進んで、議員の皆さんと意見交換をして、子どもたちの声があくまで町政に届いて、実行できるようになればうれしい。 ・必ずしも役場まで子どもたちが行かなくても、数人の議員さんに授業の一環で学校に来ていただいて、話し合う機会があってもよい。ZOOM等を利用したオンラインでの参加もできると、より気軽に参加できるように感じました。											

【事務事業評価シート】

五城目町教育委員会 生涯学習課

番 号		R06-5									
事業名		地域図書室「わーくる」									
① 事業の概要	開始年度	令和3年度	個別計画等	第3期五城目町子ども読書活動推進計画(R6. 4～5年間)							
	補助・単独	単独	根拠法令等								
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 町単 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> その他(臨時交付金)									
	対 象	五城目町、潟上市、八郎潟町、井川町、大潟村、三種町、上小阿仁村の住民とそこに勤務又は通学している者									
	目指すべき姿	・人と地域に寄り添う読書推進のもと、読書の場としてだけでなく、地域住民が交流し、年代を超えてつながることのできる図書室を目指す。									
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・図書の貸出や図書に関連した事業の実施。 ・読書推進イベントの実施。 										
② 事業コスト	区 分		単位	4年度	5年度	6年度	7年度(当初予算)	特記事項			
	最終予算額(7年度は当初予算額)		千円	4,944	6,112	6,822	7,071				
	決 算 額		千円	4,722	5,822	6,590					
	決算額のうち一般財源		千円	4,722	5,822	6,590					
	概算人件費		該当するサポート職員数	人	2	2	2	2			
		概算人件費	千円	3,016	4,520	5,282	5,821				
③ 実績	区 分		単位	4年度	5年度	6年度	7年度(予定)	特記事項			
	1	利用者数	人	6,085	8,162	8,400	8,500				
	2	貸出冊数	冊	6,542	6,956	6,661	7,000				
	3										
④ 達成目標	区 分		単位	4年度	5年度	6年度	7年度(予定)	目標値	6年度達成率	特記事項	
	1	利用者数	人	6,085	8,162	8,400	8,500	8,500	100%	五城目町教育振興基本計画	
	2	貸出冊数(一人当たり)	冊	1.08	0.85	0.79	0.82	1	79%	事務事業の検証	
	3										
⑤ 事業の評価	項目	説 明 ・ 考 察									
	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・開室以来の利用者数3万人を令和7年2月28日に達成する。 ・小学生の昼休み読書時間を今年度から毎週月曜日に行った結果、利用者数の増につながった。 									
	今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントや他事業をきっかけに図書室を使用する方、他地区の図書館にない本を求めて利用する方が一定数いるため、そのようなきっかけを取りこぼすことなく、図書館運営に反映させていきたい。町の特色を活かしたうえで、多様性のある空間の創造は、今後より重視されるべき点であるため、どのように表現していくか。 ・第3期五城目町子ども読書活動推進計画に基づき、小中学校や地域ボランティアとの連携を深め、子どもの読書への興味・関心が高まるように支援をしていくが、利用する子どもの親世代や祖父母世代に、生涯学習として小さくないウェイトを占める読書活動を、どのように日々の生活に取り込んでいってもらえるのか。 ・職員や地域ボランティア、学校とも定期的に協議の場を設けており、事業推進の参考となる情報の共有、研修を行っており、世代・年代によらず利用してもらえる環境づくりに努めていきたい。 									
	方向性										
	教育委員会による自己評価	B	<ul style="list-style-type: none"> ・きやどっこまつりに合わせて、ゲームイベント(宝探しの本版)を開催して約80名に参加いただいた。 ・七夕やクリスマス時期に選書リクエストを実施している。短冊やツリーのかざりに希望図書を記入してもらい、選書に反映している。 ・イベントの内容や周知に若干工夫は必要だが、専任の職員の存在が大きな要因となっている。 ・授業内で利用できるようになったため、子どもの来場者数の引き上げにつながった。大人は夕方以降の時間に仕事で利用する方が多いように見受けられる。 ・選書は直木賞、芥川賞、本屋大賞などの時流をとらえ、書店での平積みを調査するなど、有力筋にアンテナを張っており、毎月の展示替えが可能となっている。矢田津世子没後80年の展示コーナー、オリンピック特集コーナー等を設けた。 ・専任職員の能力向上として、県立図書館主催の研修、他地域の図書館での実地研修等に職員を参加させている。 								
審査委員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・非常に良い空間である。新书推荐のほか、タイムリーな展示や蔵書の入替は継続してほしい。『みんなの学校』ほかイベントでの活用の仕方も良い。体育館やプールへの広告掲示等で町外にもPRしても良いのでは？ ・この町の規模の図書室で、この蔵書数がちょうどよいと思う。本の選定もよい。職員のセンスが感じられる。3万人利用も納得がいく。図書をそろえるのはお金が多くなるので、計画的に増冊してほしい。期待している。 ・小学校の隣にあるという立地条件が何よりもいい。すすむしクラブが隣なのもいい。 ・できる範囲で最大限のことをしていると感じました。この活動が継続していくことを望みます。 										

【事務事業評価シート】

五城日町教育委員会 生涯学習課

番 号		R06-6									
事業名		放課後子ども教室推進事業(わらしべ塾)									
①事業の概要	開始年度	平成19年度	個別計画等								
	補助・単独	補助	根拠法令等		社会教育法						
	実施方法	<input type="checkbox"/> 町単 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> その他(臨時交付金)									
	対 象	町内の児童生徒									
	目指すべき姿	<p>・小学校および社会教育施設等を利用し、放課後や週末における文化活動、スポーツ活動、体験活動など様々な活動を通じ、地域交流を深めるとともに、安全、安心な子どもの居場所づくりを目指す。</p>									
	事業内容	<p>・事業の立案、連絡、調整等事業運営にコーディネーター(1名)と講座の講師を担う活動支援員(約30名)等、地域の方々の協力を得ながら、6～翌2月までの9か月間、月10回程度(年間約80回)程度の講座を実施している。 ・運営委員会(事業運営について協議、5月・10月・2月)の開催、企画委員会(講座の具体的内容について協議、随時開催)の開催により事業を推進している。</p>									
②事業コスト	区 分		単位	4年度	5年度	6年度	7年度(当初予算)	特記事項			
	最終予算額(7年度は当初予算額)		千円	1,059	984	1,180	1,183	○令和6年度歳入650千円(教育費県補助金853千円の内)			
	決 算 額		千円	963	903	972					
	決算額のうち一般財源		千円	324	320	322					
	概算人件費		該当するサポート職員数	人	33	31	32				
	概算人件費		千円	823	752	784	994				
③実績	区 分		単位	4年度	5年度	6年度	7年度(当初予算)	特記事項			
	1	実施講座数	回	72	57	81	80				
	2	参加児童生徒数	人	804	418	678	800				
	3	保護者数	人	89	128	128	120				
④達成目標	区 分		単位	4年度	5年度	6年度	7年度(当初予算)	目標値	6年度達成率	特記事項	
	1	実施講座数	回	72	57	81	80	80	101%		
	2	参加児童生徒数	人	804	418	678	800	800	85%		
	3										
⑤事業の評価	項目	説 明 ・ 考 察									
	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通じて継続して参加している児童生徒が見られた。 ・繰り返し参加することで指導者との信頼感も形成されていき、保護者の参加にも良い影響を与えていると思われる。 ・低学年の参加者は必ずしも講師の指導のとおりになせるわけではないが、試行錯誤を楽しんでいた。 ・元教育のサッカー経験のあるJICAの実習生を講師としたサッカー講座が開催できた。 ・わかずぐらぶ、すずむしクラブに登録している子どもたちに対しての、サッカースクール形式の派生につながった。 									
	今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒数が減少している中で参加者増加を図ることが難しい状況にある。児童生徒が意欲を持って参加できるよう、講師等関係者との協力体制を維持し、コーディネーターと共に企画・内容の強化を進めていきたい。 ・基本的には土曜の開催とし、長期休み期間にも開催しているが、子どもの居場所づくりとしては、開催要望のある平日の放課後に、わらしべ塾、すずむしクラブといった枠を超えた時間をもっと整備したい。 ・放課後での開催や夏季・冬季休業中の開催の充実を図るとすると、そのような開催周期に現在の講師陣が対応できるのかが問題となる。 ・部活動に加入する・しないを問わず、スポーツのスキル教室が放課後開催のヒントになるかもしれない。シームレスに部活動に接続できるれば理想だが。 									
	教育委員会による自己評価	B	<ul style="list-style-type: none"> ・目標の講座数は達成したものの、参加者の固定化がみられる。各家庭によって様々な事情(スポ少や部活動等)があり、今後も参加者増を求め続けるのは難しい。内容の見直しは必要だが、上記の課題に記載したように、平日の放課後に開催するなど同じ講座内容でもいづれもは参加できない層が参加しやすくなってくると考える。また、指導者等の人材確保については、協力いただける地域の方々の情報収集に努め、運営体制の強化を目指していく。 ・放課後児童クラブ「すずむしクラブ」が令和7年度から全学年対象となったことから、連携した活動をより充実させていきたい。 								
	審査委員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・活動支援員の確保が肝要となることを考慮すれば実施講座数は十分と見做す。一方で事業を運営する側や講師側が疲弊して良い活動はできないと見做しており、講座数の見直しも一考の余地があるのではないか。JICAの実習生への参加依頼や、『みんなの学校』とのコラボは、良い形だと思います。 ・土曜日に限らず、平日放課後の小学生も参加できる内容があればなおよい。 ・中学校は部活動からクラブチームでの活動に移行してきている。今後も更に加速すると思う。全部でなくてもいいので、週に1回でも地域が受け皿になってくれればよい。 ・児童数に限りがあるため、新講座の立ち上げは難しいように思います。ただそこが増えないと、固定化しつつある参加者の増加が望めないとも感じました。具体案はありませんが、新講座の立ち上げ、また、あまり人数が望めない講座をどう扱っていくかも課題だと思います。 									

【事務事業評価シート】

五城目町教育委員会 生涯学習課

番 号		R06-7									
事業名		伝統文化子ども教室事業(こども番楽教室)									
① 事業の概要	開始年度	平成27年度	個別計画等								
	補助・単独	単独	根拠法令等								
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 町単 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> その他(臨時交付金)									
	対 象	町内3年生以上の児童生徒									
	目指すべき姿	・教育委員会と五城目小学校が山内番楽保存会の協力のもと、伝統芸能と地域との交流を促進し、また、伝統芸能の保存と継承を図る。									
	事業内容	・五城目小学校の総合的な学習時間の中で、小学校3年生を対象に実施する。こども番楽教室及び五城目番楽競演会の開催。									
② 事業コスト	区 分		単位	4年度	5年度	6年度	7年度 (当初予算)	特記事項			
	最終予算額(7年度は当初予算額)		千円	378	372	424	694				
	決 算 額		千円	181	336	403					
	決算額のうち一般財源		千円	181	336	403					
	概算人件費		該当するサポート職員数	人							
	概算人件費		千円								
③ 実績	区 分		単位	4年度	5年度	6年度	7年度 予定	特記事項			
	1	こども番楽教室参加者	人	7	9	7	8				
	2	小学校3年生の学習回数	回	9	14	10	10				
	3										
④ 達成目標	区 分		単位	4年度	5年度	6年度	7年度 予定	目標値	6年度達成率	特記事項	
	1	こども番楽教室参加者	人	7	9	7	8	10	70%		
	2										
	3										
⑤ 事業の評価	項目	説 明 ・ 考 察									
	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も小学生に対して伝統芸能を体験する学習時間を確保することができた。また、こども番楽教室では参加者が減少したが高校生の協力を得ることができた。 ・令和6年度はコロナ禍以前のように番楽競演会を開催することができた。次年度でも他市町村の民俗芸能団体を招待し、競演会を行っていきたい。 ・競演会の内容を映像収録して残す事業を継続している。 									
	今後の課題 方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・町内で唯一の山内番楽保存会は、指導者の高齢化、演者の減少となっており、保存会の存続が大きなカギとなっている。 ・小学校等と連携を図り、同保存会内でも後継者が育成でき、民俗芸能が保存されていくよう支援していきたい。 ・小学校の学習発表会に取り入れる時期と、番楽教室の募集時期とにタイムラグがあるため、関わりはじめて興味を持った段階で、教室に入っていけるよう、受入れ体制を整えたい。 ・少子化の中、子どもたちの活動時間が限られており、メンバー確保における部活動とのすみ分け、送迎方法や練習時間の確保等。 									
	教育委員会 による 自己評価	C	<ul style="list-style-type: none"> ・教室への新規参加者はなかった。特定の学年を継続させるのみでなく、教室への参加者を毎年募っていかなければならない。 ・今後も、継続していくには参加者数、指導者である保存会ともに厳しい状況におかれているが、関係者との協議、連携を重ねながら、民俗芸能事業全体での保存継承に取り組んでいく必要がある。 ・子どもたちが興味を持つ段階、より早い時期にこども番楽教室への参加できるような仕組みづくりができていなかった。 								
	審査委員の 意見	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史ある伝統芸能。指導者の高齢化が喫緊の課題である一方で、いままでの本事業の取り組みが奏功してきている面もある(高校生の協力)。競演会の内容を映像収録して次世代に残す事業は良い取り組みだと思います。 ・山内番楽は地域の伝統文化で、できればなくさないでほしいものの一つである。小学校のクラブ活動の一環として継続していくとか、中学生の総合的な学習で一部生徒が学ぶとか方法を模索してほしい。 ・小中学校の部活動のような形にできれば望ましいが、指導する方や見守りの管理体制も含めて、現実的ではないようにも思います。ただ、気軽に触れてもらう機会を増やさない限り、児童の人数的にもこれ以上の活動は困難になると感じました。 									

【事務事業評価シート】

五城目町教育委員会 生涯学習課

番 号	R06-8									
事業名	みんなの学校2024									
①事業の概要	開始年度	令和4年度	個別計画等							
	補助・単独	単独	根拠法令等	社会教育法 他						
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 町単 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> その他(臨時交付金)								
	対 象	全町民(町民以外も参加可能)								
目指すべき姿	<ul style="list-style-type: none"> 新しい時代を切り拓く生涯学習の実現や地域課題から導き出される、住民の学ぶ意欲に応えるための事業。 小学校改築事業の際の住民の要望「地域に開かれた学校」の在り方を実現する一つの形。 									
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> 小学校を中心とした雀館エリアで社会教育講座を展開する事業。端的に言えば、学校開放を利用した社会教育講座群を構築し、ひとづくり、つながりづくり、地域づくりといった社会教育の目標を包括的に支援する事業である。様々な開催時間を設定することで、多様な参加機会を確保している。 学校授業を社会教育講座として展開、逆に社会教育講座を学校授業に組み込むことで学校と地域の連携で教育価値を高める講座展開を行っている。 									
②事業コスト	区 分	単位	4年度	5年度	6年度	7年度(当初予算)	特記事項			
	最終予算額(7年度は当初予算額)	千円	1,925	3,000	2,959	3,190	基金繰入金2,915千円※ふるさと納税			
	決 算 額	千円	1,914	2,959	2,915					
	決算額のうち一般財源	千円	1,914	2,959	2,915					
	概算人件費	該当するサポート職員数	人							
③実績	区 分	単位	4年度	5年度	6年度	7年度(予定)	特記事項			
事業の実績	1	講座開催数	回	24	34	32	26			
	2	学習テーマ	個	72	102	111	99			
	3	参加人数	人	800	1,800	1,900	1,500			
④達成目標	区 分	単位	4年度	5年度	6年度	7年度(予定)	目標値	6年度達成率	特記事項	
	1	講座開催数	回	24	34	32	26	30	107%	
	2	学習テーマ	個	72	102	111	99	100	111%	
	3									
⑤事業の評価	項目	説 明 ・ 考 察								
	成果	<ul style="list-style-type: none"> 32講座実施、約1900名が参加した。 アンケート結果から9割以上の参加者が内容に満足との回答であった。 参加者の年齢層も全体を通してみれば、極端な偏りもなく、年代を問わず評価していただいた。 町民や町に関わりのある人たちが講師となることで、普段関わりのある人たちが人材になりうること、町の日常の中に有形、無形の学びの機会があることに気づく機会となっている。 学校と地域、町民の居場所づくりなど、当初想定していなかった部分での評価を受け、直接的な学ぶ機会の創出から間接的な参加者の交流などを考慮すれば、波及効果はより大きいものになると思われる。 								
	今後の課題 方向性	<ul style="list-style-type: none"> これまでになかった講座となっていたため、相対的な評価は高くなると思われるが、事業目的にどれほど沿ったものなのか、しっかりと認識する必要がある。 評判や伝え聞いたものだけで判断せず、アンケート等を分析したい。同じような流れを継続することは、創出当初からの事業目的が薄れてしまう懸念がある。 教育の目標としての社会の課題解決、社会をつくる人材の育成を見据え、それぞれに小さなイノベーションを求めた楽しくわかりやすい講座群とするか、地域課題を解決すること、またそのような人材を育成することに集約していくのかなど、見極めなければならない時期にある。 町民各自の学ぶ目的を丁寧にくみ上げ、純粋に楽しめる講座、無心で体験できる講座など、講座自体の役割を理解し、事業自体を廃止するか、再定義するかを決めていきたい。 								
	教育委員会による自己評価	A	<ul style="list-style-type: none"> 事業開始から3年ということもあり、町内外から認知され、関心も年々高まっており、参加者からは継続を望む意見があがっている。 実施した内容としては期待通りの成果を得たものとした。 個別の講座としての精度も上がっており、さらなる学びの循環につなげていきたい。 目的や目標を再確認し、学びと成長が持続していくプロセスを重視することで、個人や地域の発展に向けて取り組んでいきたい。 							
審査委員の意見	<ul style="list-style-type: none"> 当町独自の特色ある取り組みの一つ。講師の選定と依頼が肝要と思料しており、各講座によって目的は変わること自体はやむを得ないと思料する。 聴いてみたい、やってみたいという講座が多く感じられる。生涯教育、社会教育の一環で町民に定着してきている。テーマや講師を多彩にし、ますます町民を楽しませてほしい。 地域に開かれた学校として、五城目小学校で行うことが意義深い。 引き続き継続した活動を望みます。 									